

# 第6学年 道徳科指導案

場 所： 6年1組教室

授業者： XXXXXXXXXX

## I 主題構成表

主題名 「伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度」 教材名「よみがえれ熊本城」

<p><b>■内容項目 C-1(7) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度</b></p> <p>我が国や郷土の伝統と文化を大切にし, 先人の努力を知り, 国や郷土を愛する心をもつこと。</p>	<p><b>■内容項目から見た児童の実態</b></p> <p>子どもたちは, これまでの生活経験で地域には「古川祭」という伝統・文化があることを知っている。また, 総合的な学習の時間や社会科などを通して, その伝統・文化が古くより引き継がれてきたことも理解している。しかし, そんな伝統・文化がなぜこれまで多くの先人たちによって引き継がれてきたのか, 地域の人たちにとってどんな存在なのかということにまでは理解が及んでおらず, 漠然と「ただ続いているもの」という認識しかないように思う。また, そのよさに気付いていないために, 今後も大切にしていきたいという思いが乏しい。</p> <p><b>■要因</b></p> <p>郷土にはどのような伝統・文化があるのかを学ぶばかりで, 伝統・文化が人々の支えになっているからこそ引き継がれていることを知る機会がない。また, それを語り伝える人材が限られている。</p>	<p><b>■教材の分析</b></p> <p>主人公である新聞記者の飛松さんは, 震災によって被害を受けた熊本城の復旧に関わって, 避難所での生活を余儀なくされている人たちがいるにも関わらず, 熊本城の復旧工事に多くの時間やお金を費やしてもよいものか複雑な思いにかられていた。しかし, 熊本城は熊本の人々にとって「復興の希望」として, 人々の支えになるものであることに気付き, 熊本城という歴史を未来へつないでいきたいと決意するという内容である。</p> <p>多くの被災者が避難所で生活していたり, 大切な人を失って傷心していたりする中で, 熊本城の復旧のためにお金や時間を費やしてよいものかという飛松さんの複雑な思いに共感させつつ, なぜ熊本城の復興に力を入れたのかを問うことで, 熊本城が人々にとって「復興の希望」として支えになっているからこそ, 未来へと引き継いでいきたいと願う人々の思いに気付かせたい。</p>
<p><b>■価値の分析</b></p> <p>昨今, コロナウイルスの蔓延防止のためにあらゆる行事や催し物に制限がかけられている。校区にある伝統的な行事も昨年から行うことができず, 未来へ引き継ぐ子どもたちを育むことができない状況が続く, 今後の存続も危ぶまれている。そんな中だからこそ, 子どもたちには自身の故郷にある伝統・文化のよさに気付かせ, 尊重したり, さらに発展させていこうとしたりする態度を育みたい。決して「引き継いでいかなければならないもの」と価値観を押し付けるのではなく, 郷土の伝統・文化のよさに気付かせる中で, 人々を支える存在として伝統・文化があるということを実感させることに重きをおきたい。</p>		

<p><b>■ねらい</b></p> <p>熊本の人たちは, 多くの被災者がいる中で, なぜ熊本城の復旧にお金や時間を費やしたのかを話し合うことを通して, 熊本城が人々の「復興の希望」として, 「支え」になっているからこそ, 未来へと引き継いでいきたいという思いがあることに気付き, 自身の郷土でも同じように自分たちの支えになっている伝統・文化があることを実感し, 尊重していこうとする心情を育てる。</p>
--

<p><b>■研究内容との関わり</b></p> <p>研究内容1-1) 課題意識をもった, 主体的な学びを生み出すための導入の工夫 ・価値に触れる発問の位置付け</p> <p>研究内容1-2) 自己を見つめ, 多面的・多角的に考えるための展開の工夫 ・価値理解を促す主発問の位置付け ・立場を明確にした議論の場の位置付け</p> <p>研究内容1-3) 自己を見つめ, 考えを深める終末の工夫 ・本時学んだ価値について振り返り, よりよい生き方について考える場の位置付け</p> <p>研究内容3-1) 主体的に地域貢献する地域講師との出会い ・ゲストティーチャーを招き, 考え方や生き方から学ぶ場の位置付け</p>	<p><b>■基本発問(◎中心発問)</b></p> <p>○大切な人を失った人, 避難所で生活している人がいる中で, 同時に熊本城の復旧に多くの時間やお金を費やすことについて, あなたはどうか。</p> <p>◎熊本の人々は, なぜそうまでして熊本城を直そうとしたのだろう。</p>
---	--

本時の展開

	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	<p>1. 価値への方向付けをする。</p> <p>○自分たちの地域の祭りは、なぜ今なお引き継がれているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古川の人引き継いでいこうと頑張ってきたから。</li> <li>・多くの人が力を合わせて途絶えないように努めてきたから。</li> </ul>	<p>研究内容1-(1) 課題意識をもった、主体的な学びを生み出すための導入の工夫</p> <p>総合的な学習などで学んだ既存の知識をもとに、自分たちの郷土の祭りを想起させることで自分事として考える手立てとする。また、そんな伝統が今なお引き継がれ、大切にされている理由を問うことで課題意識をもたせる。</p>
展開前段	<p>2. 教材「よみがえれ熊本城」の範読を聞いて話し合う。</p> <p>○大切な人を失った人、避難所で生活している人がいる中で、同時に熊本城の復旧に多くの時間やお金を費やすことについて、あなたはと思うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所で生活し、今も苦しんでいる人がいるのだから、その人たちの生活を優先するべきだと思う。</li> <li>・食べ物や住むところを失った人たちの命を救うためにお金を費やすべきで、城の復興はそのあとでも良いのではないか。</li> </ul> <p>◎熊本の人は、なぜそうまでして熊本城を直そうとしたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を撮る男性は、自分も避難所で生活しているにも関わらず、熊本城が復興する姿を苦しんでいる自分たちと重ねて、「自分たちもがんばらない」と思える存在だからではないか。</li> <li>・復興城主として熊本県内から三万件以上の寄付が集まっていることから、熊本の人たちにとってなくてはならないもので、絶対に直したいものだからではないか。</li> <li>・これまで引き継がれてきた歴史を自分たちが途絶えさせるのは先人たちに申し訳ないという気持ちがあるからではないか。</li> <li>・何度被災してもよみがえってきた熊本城は、熊本の人々にとって元気や勇気を与えてくれるとても大切なものだという思いがあるからではないか。</li> </ul> <p>【深めの発問】「こんなに時間やお金がかかり、多くの人が苦しんでいるのに、熊本城は今直すべきなのだろうか？」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>辛い今だからこそ、熊本城が人々にとっての「心の支え」や「希望」となっている。</p> </div>	<p>研究内容1-(2) 自己を見つめ、多面的・多角的に考えるための展開の工夫</p> <p>「大切な人を失った人、避難所で生活している人がいる中で、熊本城の復旧に多くの時間やお金を費やすことについて、あなたはと思うか。」と発問することで、飛松さんが複雑な思いを抱えている原因となる「避難所の人たちの優先すべきではないか」という考えに共感させる。</p> <p>その上で、当然湧き上がる疑問である「では、なぜ熊本の人はそれでも熊本城の復興に力を入れたのか。」を問うことで、写真を撮る男性や復興城主として寄付をする多くの人たち、何度被災しても立ち上がった歴史的背景など、様々な視点から多面的・多角的に「熊本城のよさ」に気付かせたい。また、深めの発問として、「当初避難者が約18万人もいたこと」「熊本城の復興に600億円もかかること」「復興に20年もかかること」を再度確認し、「こんなに時間やお金がかかり、多くの人が苦しんでいるのに、熊本城は今直すべきなのだろうか？」と問うことで、熊本城は熊本に住む人にとって、辛い今を乗り越えるための「心の支え」や「希望」となるものであることを深く理解させたい。</p>
展開後段	<p>3. 価値を共有する。</p> <p>○F.Aさんのお話を聞いて、思ったこと、考えたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの町に伝わる「古川祭」も、熊本城のように「なくてはならないもの」となっていて古川に住む多くの人たちを元気づけてきたものであり、多くの人が残していきたいと願って引き継いできたから。</li> </ul>	<p>研究内容3-(1) 主体的に地域貢献する地域講師との出会い</p> <p>F.A(ふるさとアドバイザー)を招き、郷土の伝統的文化「古川祭り」を引き継ぐ思いを話していただくことで、熊本城と同じく古川祭りも古川の人にとって「なくてはならない」大切なものであり、「自分の人生を豊かにするもの」だから引き継がれてきたことに気付かせる。</p>
終末	<p>4. 振り返りを記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は、古川祭りは多くの人が引き継ぎ、支えてきたものなのだと思っていたけど、今日の授業を通して、祭りはなくてはならないもので自分の人生を豊かにしてくれる大切なものだと分かった。そんな伝統・文化が自分の地域にあることがうれしいし、大事にしていきたい。</li> <li>・私はこれまでなんとなく祭りに参加していた。でも今日の学習を通して地域の人にとって元気を与える大切なものなのだと分かった。これからもそんな伝統を次の世代へ渡していきたいと思った。</li> </ul>	<p>研究内容1-(3) 自己を見つめ、考えを深める終末の工夫</p> <p>あえて視点を与えず、本時学んだ価値について、じっくりと考える時間を設ける。</p>